博多あん通信

発行：博多あん（安全）・あん（安心）リーダー会
（防災活動団体）
〒810-0041 福岡市中央区大名 2-6-46
市立青年センター5F 私書箱 52 番

2011 年（平成 23 年）
12月1日
＜No.17＞

文化祭会場で防災パネル展

災害を知ろう、そして対策を！
板付校区自主防災会が初の試み

福岡市博多区の板付小学校を舞台に11月6日開かれた校区文化祭会場に「災害を知ろうパネル」が展示（校区自主防災会主催）され、校区住民の注目を集めました。東日本大震災の被災現場写真や小学生が心情を吐露した作文などを中心に近年の大地震、洪水といった記録的な惨禍が綴られ、さながら「災害列島にっぽん」を映し出すドキュメンタリー。

展示パネルは約40種。写真枚数で150枚に及び、博多あん・あん（安全・安心）リーダー会員の安田 哲夫・防災士が東日本をはじめ新潟、阪神などの震災各県の関係先から、写真のほか地元の新聞も併せて入手、揃えたもので、手配からパネルに仕上げるまでに数か月を要したそうです。

東日本関係のパネルは「引き裂かれた命」「鎮魂」「救助」「生きる」「希望」と小見出しを付けるなど温かい目で仕分けされ、「希望」では大震災の惨禍から蘇る子供たちのあどけない笑顔がそれを象徴していて、何とも言えぬ感動を呼びます。

新潟、阪神、それに福岡県西方沖地震の被災現場の写真も地震エネルギーのすさまじさを思い起こすのに十分で、とりわけ阪神関係では、屋根をブルーシートで覆われた無数の木造家屋群や上、下階のベランダがくっついたようになった「潰れたマンション」など息をのむような場面がいくつもありました。

また、平成11年6月29日朝、JR博多駅周辺を映し出した豪雨時の写真は、まるで一帯が沈没したかのような錯覚に襲われるほどで、洪水の恐ろしさを改めて印象付けています。

パネル展は、学校側の計らいで校舎の一部を開放、廊下や壁面を利用して行われましたが、安田さんは「不安や恐怖をあおるのが目的ではない。災害の恐ろしさを見つめ直してもらい、防災への意識が少しでも高まれば有り難い」などと話していました。

文化祭には住民ら約1,000人が訪れたそうです。

（リーダー会
河比留 哲・防災士）

災害写真パネルを展示（板付小で）

共働事業の中間報告会開催
5項目中4項目がA評価と高い採点

来年度も継続して共働を立場から補足する形で説明てることは大切」と回答しました。

希望する事業についての中間報告会が10月25日、福岡市役所15階講堂で開催され、地域みんなで防災力向上事業実行委員会（博多あん・あんリーダー会、市民局防災・危機管理課）も報告を行いました。

冒頭、過去の災害時の写真を関係者に見てもらった後、共働のきっかけ・必要性をはじめ、実施した事業内容、事業の成果、次年度への展開について15分間説明しました。

説明は小森 勝輝・防災士（代表幹事）が全体的なことを、防災・危機管理課の白石直嗣氏と砥上 辰繁・防災士（代表幹事）が、それぞれの審査員からも共働事業を継続することで、どのようなメリットがあるのかと質問がありましたが、出前講座につい ては、共働することで「地域の視点が入ること」、「人員配置が必要なDIGなど演習形式の出前講座が可能にな ること」、ジュニア防災士養成講座は、「昼間の地域は、お年寄りと子どもたちが多い地域もあり、子ども達へ防災について伝える機会が持てて感じました。

（リーダー会事務局次長
牧薗 典浩・防災士）

小森（中央）砥上両代表幹事、左は白石氏

地すべりなどの災害に注意を

早良区重留2丁目町内会は脅威を感じていたようの出前講座が9月11日夜、です。この地域の特性は油集会場で開かれ、役員ら22人が集まりました。早良支部るため、集中豪雨や大地震の山本 光男・防災士が後段の際には地すべりなどの災害を担当。早良区の「揺れやすが誘発される恐れがさマップ」を解説。引き続きあり「日頃から注意して有区内を流れる室見川につい事に備える事が大切」と強て話しました。

浸水想定ハザードマップは「身近な水害」として参加者

（早良支部
山本 光男・防災士）

熱心に聴き入る参加者

コミュニケーション図れた秋のひと時
炊き出し訓練もまた楽し

南区の西花畑グループ・サークル協議会では年に1回、サークルの懇親会を催しています。昨年は油山でバーベキュー。今年はこのほど西花畑小学校でグランドゴルフと炊き出し訓練を実施しました。

参加者は約80人（うち子供20人）で、グランドゴルフの最中に炊き出しを始めました。知り合いの材木店から前日、大量の廃材を貰い受けたのを薪にして、10kg（7升）のかしわ飯を大釜3個で炊き上げました。水加減で、「中指の第一関節当たりまで水を入れるの～」、「いやそうでは無くて～」とか一悶着も二悶着も？（笑）。また「赤子泣いても蓋取るな~」などと野次馬のうるさいこと。何とかかんとか言いながらも、お焦げの出来た立派なご飯が炊けました。

そして、約100人分の豚汁も出来あがり、参加者全員で美味しく頂きました。「さすが、薪で炊いたご飯はうまかばい」（さっきまでの悶着は？どこへやら）。

炊き出し訓練もでき、違うサークルの方達ともコミュニケーションが取れた（防災に欠かせない）一石二鳥の楽しい秋のひと時でした。

【注】西花畑グループ・サークル協議会は、公民館を利用している文化系、スポーツ系など39サークルの集まり。

（南支部長 砥上辰繁・防災士）

熱心に聴き入る参加者

南区三宅校区では避難所運営ゲーム

南区の三宅校区のリーダー研修「防災出前講座」が9月10日、三宅公民館講堂で開催され、参加者は避難所運営ゲーム（HUG）を中心に学びました。

自治会や防災関係者ら73人が参加。同校区安全・安心まちづくりネットワーク防災アドバイザーの天前勝一・防災士（南支部）の司会で講座は進行。貞方道夫・校区自治協議会会長が開講挨拶で「東日本大震災と紀伊半島での台風12号の被害の状況を踏まえ、キメ細かな各町単位での防災意識の高揚が求められている。この機会によく学んでほしい」などと述べました。

まず、市民局防災・危機管理課の宇治川 学係長が土砂ダムによる水害と警固断層について説明。早速、HUGの研修に入りました。メインファシリテーターの南支部 万善一三・防災士の紹介で博多あん・あんリーダー会事務局次長の牧薗典浩・防災士が登場し、意義や内容、ルールなどについて話しました。

事前に分けられていた9グループのテーブルには、それぞれ避難所に見立てた大型用紙が広げられ、南支部と他支部の応援防災士が介添で付いています。様々な避難住民カードが読み上げられ、高齢者や病人、障がい者らを避難所の中で手際よくどう配置するかが課題です。初めは悩んでいた参加者もそのうちに慣れていき、全てのグループでほぼ同時に配置を完了していました。問題点などについての発表が行われましたが、その中で特徴的だったのは①家族同様のペットを避難所の中に入れるわけにはいかないのか②トイレの問題はどう解決したらよいのか――などの意見が出たことでした。

さあ、今からスタート！

最後に中津留準介・同まちづくりネットワーク副会長（防災担当））が「実に熱気あふれる研修でしたが、まずは災害が起こらない事を祈るのみです」と締めくくりの挨拶をし、終了しました。

この研修の企画から準備、司会まで務めた天前防災士によると「長時間にも関わらずみなさん、大変、熱心で、毎年こういう研修会を開いてほしいといった意見がたくさんあった」そうです。貞方会長ら役員も「とても良かった」などと感想を述べていました。

（南支部 三隅繁樹・防災士）

早良支部の出前講座も9回目

早良支部は、市民局防災・危機管理課との共働による今年度9回目の出前講座を実施しました。9回目の出前は11月11日、早良区田隈新町集会所で開いた賀茂校区老人会「わかさ会」での講座。同会の要請に基づくもので、参加された人たちは熱心に聴きいっていました。

山本 光男、木村 健司両防災士が代わるがわる地震対策や区内の水害ハザードマップなどについて詳しく解説しました。質疑の中には消火器の耐用年数についての質問もありました。「消火器の耐用年数は機材に製造年が記入されていますが、その年から7年乃至10年です。機材によって年数がことなります」と答えました。賀茂校区は、室見川の水害はないと予測されていますが、平坦地だけに台風時の集中豪雨などには気を付けるよう、注意を促しました。

（早良支部
山本 光男・防災士）

編集後記

今年は、東日本大震災で開け、その巨大な影響に日本列島が様々な形で〝汚染〟され尽くされたような1年であった。政府の調べによると、避難者がいまだに33万人強もいるという現実を、私たちは深刻に受け止めねばならない。仮設住宅に移ったものの、環境の激変に身も心も蝕まれ、命を果てる高齢者の悲報も絶えない。

福岡マンション管理組合連合会は、加盟各管理組合への支援幅を「福祉とコミュニティ」にも拡げ、取り組んでいる。災害時に欠かせないのが共助態勢で、コミュニティづくりに力を入れ、日ごろから防災意識の向上を目指す一方で、高齢者による孤独死の防止に目を向けるというわけだ。極めて現実的で、評価したい。

福岡市とリーダー会の共働事業も進んでいる。大震災後、市民は「他山の石」と関心を高めているが、さて、具体的、実践的にどうこれに応えていくか、私たちは新たな覚悟を持たねばならない。年の暮れに当たり、雑感を「一筆啓上」しました。

（阿比留）

印刷：(株)ビジネス・ワンファシリティーズ

マンションの防災会設立機運高まる

「想定外に取り組む姿勢必要」

東日本大震災以降、防災に対する市民の関心が高まっていますが、福岡県内のマンションで初めて実践的な自主防災会を立ち上げた天神ロイヤルガーデン（中央区今泉2）の自主防災会事務局には、このところ他のマンション管理組合などから防災会組織化への協力を求める依頼が相次いでいます。

天神ロイヤルガーデン群を抱える地区自治会一に備えています。「安全を高めながら、本格的な組は平成22年3月、福岡県などから。博多あん・あん札」も作成、無事の場合に織化にはいる計画を立てています。

防災賞（知事表彰＝団体）リーダー会員で、福岡マンを受賞したマンション。ション管理組合連合会の1,000年に一度と言われる東日本大震災は、福岡市民にも大きな衝撃を与え「想定外のことがいつ、周辺で起こるかしれない」などといった疑心も防災への関心を高めた理由の一つ。警固断層による大地震が予測される中で、市民の一人は「対岸の火災、とはいかない心境です」と話しています。そうした中け、中央区荒戸地区のマンションとしての支援帯）は〝発展途上〟。に期待が寄せられているのでしょう。

組織化への協力依頼は、マンションの管理組合が約8割で、残りはマンショ

玄関扉表側に貼り出すよう、住民への周知徹底を図った上で全戸へ配布しました。個人情報保護の関係で難しい住民台帳と災害時要援護者リストも作り上げ、10月には要援護者を囲む会を催してコミュニケーションを図っています。

このほか東区美和台地区、中央区大濠地区などの各マンション、それに南区若久校区自治協議会、同区東花畑校区自主防災防犯協議会などの関係者がマンション防災会の設立について意欲で、打ち合わせを行っています。

さる7月には若久校区自治協議会がマンション

援護者を囲む懇談会（原地区のマンションで）

に特化した防災講演会を変化の表われの一つでしょう。

これより前の6月には、福岡市住宅都市局や福岡県などが「マンション管理基礎セミナー」を開催。席上、阿比留防災士が講演し、コミュニケーションの大切さと自主防災会の必要性を訴えました。

（中央支部　阿比留　哲・防災士）

開き、講師に招かれた阿比留防災士が約80人の管理組合理事長らを前に実践的、具体的な防災対策などについて語りました。

参加者の一人は「想定外を想定して防災対策を立てる必要がある。講演会を大切さと自主防災会の必聴いてその想いを一層強くしました」などと話していましたが、これも意識の

年ごとに高まる住民意識

天神ロイヤルガーデンで防災訓練

助け合いを目的とするに必要な扉が開いているへ。普通救命講習修了以上天神ロイヤルガーデン（1かどうかの確認ができるの資格を取得している住5階建て、108世帯、約②表示していない世帯は、民が約50人もいるだけ270人＝中央区今泉2）扉が開かなくなったか、まに交代要員も十分です。自主防災会は11月12たは中で異常事態が発生一方、主婦グループで編日、大地震を想定した各班していることが想定でき成する生活班は非常食の合同の訓練を、全館を使っる③救出班は無表示世帯炊き出し訓練。カレーラて行いました。日程が生憎を目指せばよいわけで、作イン管理組合や地域防災会の土曜日で、出勤する住民業が効率的に進む――のや家庭用ガステーブル（小も多い中での〝実験〟でした。

午前9時50分、想定震度6強の地震発生を知らせる警報ベル。これとともに1階の管理事務所から全戸同時に「言葉」で厳戒を告げます。各家庭では事前に配布してある初期対応マニュアルに沿って整然と対処しました。

10時。救出、避難誘導両班の要員約10人が地震緊急対策本部から出動。4階と5階に倒れている負傷者2人（マネキン人形、重さ15kg）を、救出班が背負い式担架と布製簡易担架で1階ロビーに搬送し、ただちに応急処置

重傷者が運び込まれる（1階ロビーで）

マンションや福祉関係者らが参観

東日本大震災以後、防災への関心が高まっていますが、市内各所のマンションや地域防災会、それに博多あん・あんリーダー会員をはじめ福岡県社会福祉協議会事務局、警備会社からも詰めかけていました。

（中央支部　林　啓治・防災士）

た。

消火器10本を使っての初期消火訓練もしまし

よく作りました。食材も全

大震災で市民の意識にも変化

「想定外に取り組む姿勢必要」

東日本大震災以降、防災に対する市民の関心が高まっていますが、福岡県内のマンションで初めて実践的な自主防災会を立ち上げた天神ロイヤルガーデン（中央区今泉2）の自主防災会事務局には、このところ他のマンション管理組合などから防災会組織化への協力を求める依頼が相次いでいます。

天神ロイヤルガーデン群を抱える地区自治会一に備えています。「安全を高めながら、本格的な組は平成22年3月、福岡県などから。博多あん・あん札」も作成、無事の場合に織化にはいる計画を立てています。

防災賞（知事表彰＝団体）リーダー会員で、福岡マンを受賞したマンション。ション管理組合連合会の1,000年に一度と言われる東日本大震災は、福岡市民にも大きな衝撃を与え「想定外のことがいつ、周辺で起こるかしれない」などといった疑心も防災への関心を高めた理由の一つ。警固断層による大地震が予測される中で、市民の一人は「対岸の火災、とはいかない心境です」と話しています。そうした中け、中央区荒戸地区のマンションとしての支援帯）は〝発展途上〟。に期待が寄せられているのでしょう。

組織化への協力依頼は、マンションの管理組合が約8割で、残りはマンショ

玄関扉表側に貼り出すよう、住民への周知徹底を図った上で全戸へ配布しました。個人情報保護の関係で難しい住民台帳と災害時要援護者リストも作り上げ、10月には要援護者を囲む会を催してコミュニケーションを図っています。

このほか東区美和台地区、中央区大濠地区などの各マンション、それに南区若久校区自治協議会、同区東花畑校区自主防災防犯協議会などの関係者がマンション防災会の設立について意欲で、打ち合わせを行っています。

さる7月には若久校区自治協議会がマンション

援護者を囲む懇談会（原地区のマンションで）

九州大伊都祭を舞台に活動（西支部）

防災学習体験者延べ500人

①

②

③

九州大学伊都キャンパスで11月13日に開催された伊都祭に我が「西リーダー会」も初めて参加しました。防災士の〝精鋭〟15人、「あんぜん・あんしん」の体験学習を大いに指導しました。6月に行われる予定だった伊都祭も3.11の大震災で自粛する事態になり、開催そのものが危ぶまれました。しかし、逆に大震災を受け地域と大学が連帯することで防災力を高めていくというコンセプトが生まれ、開催に至ったものです。この日の参加目的は、水消火器とAED（自動体外式除細動器）の学習を通して「防災」を体験してもらうこと。写真①は活動を始める前の集合写真です。いずれ劣らぬ猛者（猛女？）揃いで、笑顔の中にも防災に賭ける熱い思いが伝わってきます。若い学生さんもちらほら。九大の学生さんにもお手伝いいただきました。写真②は水消火器の扱い方を子供に分かり易く教えている場面。子供は水遊びが大好き。「ピノキオのピー」「ピノキオのノー」という〝あいうえお作文〟のような声が1日中響き渡っていました。（盛況で水消火器が足りなくなり、水充填もひっきりなしに――）「火事になったら、僕が火を消してお母さんを助けてあげる！」と話す子供に優しく微笑む母親。新聞を賑すネグレクトや虐待事件もここでは嘘のような光景でした。AEDを使った体験学習では2つの取り組みを実践。1つは「じっくりAED」です。初めは小さかった声もいつしか大きな声に。熱の入ったデモンストレーションとなりました。写真③は今回の目玉である「いきなりAED」。会場広場で突然人が倒れてAEDのデモが始まるといった具合です。特設ステージの出演者が気の毒になるほど注目を集めていました。（発案者は竹尾　宗二・防災士。この取り組みは大成功でした）あっという間に時間が過ぎましたが、水消火器（延べ80本）とAEDでこなした学習体験者は延べ500人。心地よい疲れとともに「西リーダー会」の実りある活動の1日が終わったのでした。

（西支部　櫛間　嘉徳・防災士）

安心感与えるリーダー会員の赤ジャンパー

南区の筑紫丘校区自治協議会（今井　是生会長）主催の「防災リーダー研修会」が11月26日、筑紫丘公民館で開催されました。各町から役員、防災担当、民生委員など48人と、市民局、南区役所、南消防署から各4人が参加。それに博多あん・あんリーダー会の防災士9人が加わりました。

災害図上訓練（DIG）を実施。発災時の避難経路の確認などについて各テーブルで活発な意見が交わされました。参加した40歳代の女性は「とても分かりやすかった。

このような訓練を各町内で開催して欲しい」、また公民館長（60歳代）は「各テーブルに赤いジャンパーのリーダー会員に付いて頂き、それが安心感を与えて活発な意見交換につながったようです」などと感想を語っていました。（南支部　三隅繁樹・防災士）

真剣に図上訓練

公園清掃と防災訓練

河上一座も意識向上に一役

南区の長住2丁目自治会（坂本　泰会長＝防災士）主催の「地域ぐるみ清掃と防災訓練」が9月25日、長住北公園でありました。毎年9月最終の日曜日に恒例の行事として実施されているもので、この日は約130人が参加しました。うち30人は小学児童ら元気な子供たち。

まず、朝9時から公園の清掃です。これが終わると、今度は南消防署桧原出張所の署員の指導で簡易担架による被災者搬送法、水消火器を使っての放水操作訓練、それに119番に電話する際の注意点（火時か救急か、住所を説明する際の知らせ方、自分の名前とか）などについての勉強をしました。

博多あん・あんリーダー会南支部の河上一座による防災紙芝居「稲むらの火を消すな」が上演され、飴をしゃぶりながら子供も大人も熱心に見入っていました。小学6年生の男児は「自分の命、他人の命もみんな大切だという事が理解できました」、同5年生の女児は「互いに助け合うことの大切さを知りました」と感想を話していました。　（南支部　三隅　繁樹・防災士）

防災紙芝居で知識を

「マンション防災講座の必要性も痛感」

長丘校区防災リーダー研修会で〝まち歩き〟

南区の長丘校区自治協議会課の白石直嗣氏が挨拶の中で近な単位ではなく、町内会からも出前講会（樋口　美璃男会長）と自主防災所の連携、向こう三軒両隣など座の希望を出したい」との意見もありリーダー研修会」の出前講座の依頼絆の大切さを強調しました。（このような意見こそ、私達ました。

があり、このほど長丘公民館で校区のリーダー33人の方々が一番に望んでいる事です）参加者の災害図上訓練（DIG）を実施一が6班に分かれ、あん・あんリうち60～70％の方はマンションリーダー会南支部の防災士ら9人住まいとのことで、今後、マンションがそれぞれのテーブルをサポーの防災講座も必要と感じました。トし、災害図上訓練がスタート（南支部長　砥上　辰繁・防災士）しました。災害時要援護者の各ブロック長、自主防災会の役員と博多あん・あんリーダー方々の住まいや自分達が避難する経路等を書き込み、「あなたの会南支部員らで「事前のまち歩き」をしました。それぞれの役員の方々は、普段見慣れた「ま……プラス面、マイナス面を分ち」も、目的をもって「まち歩析し合って班毎に発表しましき」をする事で、今まで見えなた。

かった「物・事」が見えて来ることが「よく分かりました」とのことでした。

まず、市民局防災・危機管理

参加者の多くの方から「分かり易く理解できた。今後とも継続して欲しい」との要望がありました。また「校区という大き

ここは、どうなっとうと？

炊き出しの豚汁に舌鼓　平尾校区で自主防災訓練

中央区平尾校区の自主防災訓練が10月9日、平尾小学校の体育館と校庭でありました。平尾校区防災会、同校区自治協議会の主催、高宮消防分団、中央消防署、中央区役所、食生活改善推進員協議会の協力で実施されたものです。

3連休の中日で、しかも好天気。若い両親に連れられた小学低学年児童、幼稚園児くらいのお子さんをはじめ主婦や中、高年の皆さんら多くの校区民が参加しました。

平尾校区防災会の山田　隆会長と平尾校区自治協議会の松本 信征会長が挨拶、その中で「平尾校区の住民が、危機意識を共有して訓練の成果を地域へ広げていきましょう」などと述べ、早速、訓練が始まりました。体育館で人形2体を使い、福岡市消防局員と高宮消防分団員がAED（自動体外式除細動器）の操作法や胸骨圧迫、人工呼吸の仕方など「心肺蘇生法」について参加者に手ほどき。大人も子供も楽しく体験しました。

消防局員が、交通事故や転落事故などによる負傷者の救護について「首に損傷を負っている場合が多いので、首を動かす気道の確保はしない方がよい」と注意。ただし、AEDの使用と胸骨圧迫は救急車が到着するまで続けるよう、勧めていました。この後、校庭に集まりスタンプラリー形式の訓練体験。高宮消防団員の指導で「大声コンテスト」「119番通報訓練」「水消火器の使い方体験」を親子一人ずつ、家族みんなで汗をかきながら取り組み、参加者全員で赤バケツ、青バケツの2列に分かれて「バケツリレー」も行いました。スタンプラリーの結果表を持ったラリー参加者には全員に参加記念品が配られました。

119番通報訓練

最後に福岡市の関係者が総評。災害の際の対応について「まずは自分のことは自分で対応し」（自助）「周辺の人と協力し合うことが大切です」（共助）と述べ、「行政の対応（公助）は時間がかかるので、日頃から自分たちで出来ることを心がけていてください」などと結びました。

参加者の1人は「消防局の人の説明も丁寧で分かりやすかったし、大変、良い経験になりました」と話していました。また、炊き出し訓練で用意された豚汁が食生活改善推進協議会の皆さんからふるまわれ、それぞれが舌鼓を打っていました。　（中央支部　榊　勲・防災士）